



報道発表資料の配付日時 6月 7日 (火) 10時00分

発表項目 (行事名)	北海道史編さん委員会による答申について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>平成30(2018)年度から編さんを行ってきた北海道史全8冊のうち、初刊となる『北海道現代史 資料編2(産業・経済)』の原稿が、令和4年(2022年)6月6日に開催された北海道史編さん委員会で決定され、答申を行うものです。</p> <p>1 日時 令和4年(2022年)6月8日(水) 16時45分から</p> <p>2 場所 北海道庁9階 職員監会議室 札幌市中央区北3条西6丁目</p> <p>3 出席者 北海道史編さん委員会 委員長 小磯修二(一般社団法人地域研究工房代表理事) 副編集長 坂下明彦(北海道大学名誉教授) 道側 藤原総務部長ほか</p> <p>4 答申原稿 初刊の原稿となる資料及びその解説文 (およそ1,000ページ)</p>		
参考	<p>道では、答申原稿に基づき令和5年(2023年)3月に紙媒体で刊行するほか、道立図書館のデジタルライブラリーでの公開も予定しています。</p> <p>北海道史の構成及び今後の刊行予定については、別紙の「道史編さん計画」をご覧ください。</p>		
報道(取材)に当たってのお願い	・取材当日は、マスクの着用等にご協力いただくとともに、発熱や風邪の症状等がある場合には、取材を控えていただくよう、お願いします。		
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク	(場所)	
担当 (連絡先)	<p>総務部文書課道史編さん室(担当者:立澤 修一)</p> <p>TEL ダイヤルイン 011-206-6502</p> <p>内線 22-817</p>		

道史編さん計画

(令和元年7月25日 令和元年度第1回道史編さん委員会決定)

第1 趣旨

この計画は、道史の編さんを着実に進めるため、「道史編さん大綱」(平成30年3月29日知事決定)に基づき、刊行の方法や編さんの方針等を具体的に明らかにするものである。

第2 構成及び刊行年度

現代史	誌名「北海道現代史」 資料編1(政治・行政) 2024年度 資料編2(産業・経済) 2022年度 資料編3(社会・教育・文化) 2023年度 通史編1(終戦～高度経済成長期) 2025年度 通史編2(安定成長期～低成長期) 2026年度
概説	誌名「北海道クロニクル (副題)」 上巻(考古～近世) 2027年度 下巻(近現代) 2027年度
年表	誌名「北海道史年表」 2027年度

第3 刊行の方法

1 刊行の考え方

道史を広く普及させ、将来にわたり北海道史の情報源として利活用されることを目指し、従来の紙媒体による刊行・頒布に加え、デジタル技術の進展に応じた提供を積極的に行う。

2 紙媒体での刊行

各巻頁見込み		形態	刊行部数
現代史	資料編 資料+解説 1,000頁 口絵・凡例・目次等 50頁 計 1,050頁	A5判 上製本	無償 1,200冊 有償 150冊
	通史編 本文 980頁 口絵・目次・索引等 70頁 計 1,050頁		無償 1,200冊 有償 200冊
概説	各 400頁	A5判 並製本	無償 1,400冊 有償 3,000冊
年表	1,000頁	A5判 並製本	無償 1,200冊 有償 3,000冊

3 電子媒体での刊行

- (1) 現代史、概説、年表のすべてについて、検索可能なデジタルデータによりインターネット公開することを原則とする。

- (2) 概説及び年表については、今後の技術的進歩や普及状況をふまえながら、電子書籍として頒布することの有用性を検討する。

第4 編さんの方針

1 現代史

- (1) 資料編における掲載資料の選択や、通史編における叙述では、公平で客観的かつ学術的に正確であることに留意する。
- (2) 様々な事象の中から、北海道の特徴や独自性を表すものを、意識的に取り上げる。
- (3) 文献資料を中心に、映像・音声資料や関係者からの聞き取りなど、道内外にわたり広く多彩な調査収集に努める。
- (4) 対象時期は第二次世界大戦後から2003年まで（掘道政期まで）とし、資料編への掲載資料は基本的にこの範囲にとどめる。ただし、戦前・戦中からの連続性なしには説明が困難な事象や、2003年以降の展開にまで一連の流れとして言及すべき事象は、通史編の叙述の中で補足する。
- (5) 資料編には、各資料ごとに内容や取り上げる意義についての解説を付し、一般道民が興味深く読めるよう配慮する。
- (6) 資料編の掲載資料は、通史編の叙述の論拠や例示になることから、資料編・通史編双方のつながりがわかるように工夫する。
- (7) アイヌ史に関わる部分は、単一の項目に収めるのではなく、各巻各分野の中で過不足なく適切に配置する。
- (8) 貴重な資料を発掘し後世に残すことの意義を認識し、保存に適した収集及び整理を行う。道史編さんで収集した資料は、事業終了後は道立文書館に移管し活用する。

2 概説

- (1) 「新北海道史」以降の研究成果を反映させ、考古から現代に至る北海道史を、新たな視点でわかりやすく叙述する。
- (2) 記述中心の通史型とするが、ビジュアル的要素も取り入れ、一般道民が親しみやすい構成とする。
- (3) 道民が書店等で手軽に購入できるものとする。

3 年表

- (1) 「新北海道史年表」を底本とし、刊行直近年までを収録する。
- (2) 「新北海道史年表」の記載形式を踏襲し、各事項には出典を明示する。
- (3) 道民が書店等で手軽に購入できるものとする。

第5 道民からの情報収集・道民への情報提供

- (1) 資料収集や資料情報の提供には、広く道民の協力を求める。
- (2) 編さんの進捗状況や調査研究の成果は、ホームページで逐次公開する。
- (3) 各巻刊行直後には、委員による講演会を実施し、道史に対する興味関心を深める。